

収容されたお母さん犬は、職員によって「ナカちゃん」と名付けられました。

産まれたばかりの子犬には、授乳が必要で、乳ばなれするまでは、新しい飼い主への譲渡ができません。子犬がある程度の大きさに育つまで、ナカちゃんには子育てをしてもらうことになりました。

普段と違う環境に、少し神経質になるナカちゃん。時には、職員にうなることもありました。

そんなお母さんのことなど素知らぬ顔で、子犬たちはおっぱいにしがみついてぐんぐんと大きくなっていきます。

10日後には目が開き、体重も重くなった子犬たちは、ミルクボランティアという離乳するまでの子犬を育てるボランティアさんに引きとられていきました。

離乳後に新しい飼い主を探していくことになります。

ナカちゃんは数日間、耳をそばだて、クンクンと周囲を探し続けていました。

